

1 災害復旧ワーキンググループの活動状況

発災後に水産物の生産・流通機能を早期に再開するために策定した境港地域 BCP の実効性を確認するために毎年机上訓練を実施してきたが、地震・津波を想定した避難訓練は今回初めて。

平成 30 年	境港地域における水産物の生産・流通に関する業務継続計画（BCP）策定
令和元年	陸送・1号上屋完成により BCP を改訂、火災訓練を実施
令和2年	荷受業者を対象に机上訓練を実施
令和3年	仲買業者を対象に机上訓練を実施
令和4年	2号上屋完成により BCP を改訂、BCP 協議会の参集訓練を実施

2 避難訓練実施の背景・目的

- ・近年、各地で地震や津波の自然災害が発生しており、多くの人命や財産等が失われている。
- ・いつ・どこで発生するか分からない災害時に迅速に避難できるよう避難訓練を実施する。
- ・訓練を通して関係者の防災意識を高め、自助、共助による防災、減災のしくみづくりをする。

おねがい ～日頃の防災について～

- ① 自家用車は屋上駐車場に駐車する
- ② 各社・各自で3日分の水、非常食の備蓄
- ③ 自宅、職場からの避難場所までの避難経路確認

3 災害に強い漁港・市場の整備

・M6.5 の直下型地震動が発生しても岸壁の損傷や液状化等の被害が限定的で速やかに漁業活動が再開できるように、上屋の地下 63m で杭打ちを行い、地下 30 メートルまで液状化対策を施している。

・予想最大津波高（3.7m）より高い位置となる屋上（地上高さ 7.25m）に 250 台分の駐車スペースと受電設備を整備し、屋上駐車場及び 2 階を緊急避難場所として利用できる。



4 市場2階の指定緊急避難場所の指定

- ・津波警報発令中の一時的な津波避難ビルとして境港水産物地方卸売市場（1号、2号、陸送上屋の2階）を地域住民等に使いわせるための協定を令和6年2月16日付けで鳥取県と境港市で締結。
- ・今回の協定締結は境港市内の学校などに続いて75か所目。

5 避難訓練の実施計画（案）

日 時 令和6年3月8日（金）午前11時から正午

対 象 市場内で作業される水産関係者・市場関係者

被害想定シナリオ

- 発生日：令和6年3月8日（金）11時0分
- 地震：鳥取沖西部+東部断層（F55断層）で震度6強の地震発生、3分後に境港に津波警報が発表
- 津波：最大津波高：2.4m
津波到達予想時間：境港市への海面変動30cm到達時間は地震発生後21分、最大津波到達時間43分
- 避難：津波到達までに市内中心部への移動が困難な状況のため垂直方向へ避難
- 市場の被害：津波により全ての岸壁及び1号・陸送上屋の1階部分が浸水し、漁船及び荷揚機材の流出、漂流、沈没。漂流物による境水道部の閉塞が生じ、船舶航行障害と水揚能力が低下。
- 漁船・漁具：休憩岸壁係留中漁船の多くが破損、浸水あり。小型漁船、定置が流出。
- 通信：一般電話はつながりにくい状況、データ通信は通常どおり使用可能

6 避難訓練内容（案）

①シェイクアウト訓練（11時～11時3分）

- ・場内放送「訓練 訓練 大地震発生 直ちに安全を確保してください」
- ・参加者全員で安全確保行動「まず低く、頭を守り、動かない」を実践する。

※シェイクアウト訓練

2008年にアメリカで始まった新しい形の訓練で、同時刻に一斉に参加者全員が、身の安全を図る行動を取ることによって、「自分自身の安全は自分で守る」ことを身につけ、「災害があってもケガをしないこと」を基本に、身近な人を助けるなど地域防災力の強化を目的としている。

訓練は**3つの安全行動**を“その場”で行うだけ!

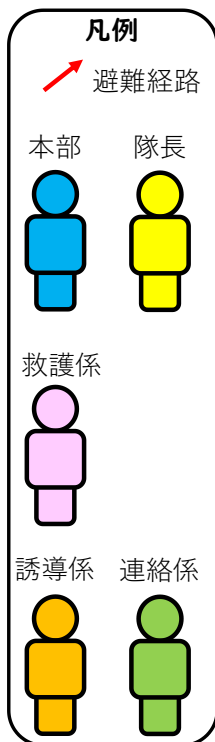


②津波避難訓練（11時3分～11時20分）

- ・場内放送「訓練 訓練 津波警報発令 全員2階に避難せよ」
- ・避難者は誘導員の誘導により最寄りの階段から2号上屋2階へ避難し、おさかなパークのエントランスに配備した自主避難場所に集合し、訓練終了までその場で待機する。
※移動の際は長靴歩行も可とする。
- ・誘導係と連絡係は取り残された人がいないか確認し、連絡係は本部にLINE電話で一報を入れてから本部へ移動し口頭で報告する。誘導員は監視デッキまで避難し警戒を続ける。
- ・水産事務所長は衛星電話で鳥取県庁水産振興局長に訓練結果（被害状況及び避難状況）を報告。
- ・全員避難を確認したのち、場内放送「全員避難成功、訓練終了」により訓練終了。

③自主避難場所開設訓練（11時3分～11時40分）

- ・境港おさかなパークエントランスに自主避難場所を開設する。
- ・救護係は学習室に簡易ベッド1台、救急セット、AEDを配備し負傷者の救護を行う
- ・避難所係は周囲の避難者に自主避難場所の開設作業の協力を呼び掛け、避難者が待機できるよう電源、投光器、備蓄用品（水、乾パン、毛布）を備蓄倉庫から搬入する。
- ・避難所係は避難者の所属・名前を記録、避難者はアンケート用紙を記入。



エリア毎に避難者を誘導

